みらいだより

令和６年１月５日

社会福祉法人 みどり会
みどりの森 みらいこども園

園長　　中川　宏美

新年を迎えました。お正月ムードから一転、能登半島を地震が襲い、羽田空港では飛行機の衝突炎上事故の甚大な被害で心が痛みました。改めて、命・災害時の対応について考える年明けになりました。

引き続き、子どもたち一人ひとりが“私は大切な存在なんだ”と受け取れるような保育をしていきたいと私たち職員一同、思っております。今年度も保護者の皆様の温かいご理解とご協力をお願いいたします。今月、子どもたちは、昔から伝わるお正月あそびをたくさん体験します。

1月		
日	曜	行　事　予　定
5	金	保育始め
9	火	個人懇談会(1/9～2/10) どんぐり･たけのこ･りす･うさぎ･そら
13	土	保護者交流会(たけのこ) お弁当の日
15	月	身体測定(どんぐり･ひかり)
16	火	身体測定(たけのこ･そら)
17	水	身体測定(りす･うさぎ)
19	金	雪あそび(ひかり) もみの木森林公園 ※予備日(1/26)
20	土	保護者交流会(りす)
27	土	お弁当の日
		※変更の場合あり

遊びの中で文字、数量や図形などに関心を持っています

園では知識を単に教えるのではなく、生活の中で子どもが生き生きと文字、数量や図形などに親しむことができるように意識して環境を工夫し、援助をしています。日常生活の中で、文字に興味を持ち、人数や物を数えたり、量を比べたり、また様々な形に**親しみながら必要性を感じられる体験を重ねています。**

乳幼児期の遊び（生活体験）が学びであり、小学校以降の深く理解する力に繋がっていきます。

食育「食べることは、生きること。食べることが大好きな子に！！」

◆**給食室**：毎朝、給食室の窓ガラスから「きょうの、給食はなんですか？」と聞く子がいます。給食先生から「今日は、から揚げだよ」と聞き「やった～！」と喜び、別の日は「今日は、鯖の味噌煮だよ」と聞くと「さかなは、ちょっとにがて」と、友だちにもメニューと自分の好み(好き嫌い)を伝えにいきます。みらいこども園の給食室は、食事を作る様子や、作ってくれる人の顔が子どもから見える設計になっています。毎日、美味しいご飯を作ってくれる給食先生の顔が見えることで、子どもたちの安心に繋がり食育の土台になっています。

◆**バイキング**：幼児は、一人ひとりがその日の気分・お腹の具合に合わせ、自分で量を決めて食べることができます。苦手なものはちょっとだけ、好きなものは多めに、と自分で選択することにより、自発的に食に向かえるよう、バイキング形式にしています。大人は、好き嫌いなく食べることを強いてしまいがちですが、食事は、おいしく楽しく食べることも大切だと思います。一緒に食べる大人や友だちが美味しそうに楽しく食べることが「ちょっと食べてみようかな」の第一歩になります。（ちなみに、私はうん十年前に自分の子どもに「一口だけ食べなさい」「ピーマン美味しいのに」と声をかけていました…反省）

12月　ドキュメンテーションから

どんぐり組（0歳児）：「じぶんで」

お昼寝前には、自分の体より大きな布団を運び、自分で敷いて準備をしようとします。起きると布団を半分に折りたたみ片付けようとします。生活の流れに見通しを持ち、自分ができることは自分でしようとします。大人のやっていることをよく見て、真似をして、学びの第一歩を歩んでいることを実感します。

たけのこ組（1歳児）：「給食のおてつだい」

調理前の芯がついている、かたまりのキャベツから一枚いちまいはがしてちぎっていきます。指先の力を加減しながら、黙々と集中してお手伝いをしていました。その後、ままごとコーナーで、鍋とフライ返しを持ち、自分でちぎったキャベツをコンロで料理し始めました。給食のお手伝いと生活体験が繋がっています。

りす組（2歳児）：「うわっ！！すべる」

「ちょっと怖いからゆっくりいくね」「あっ、すべりそう」「すべるから、かにさんあるきするね」坂道にたくさんどんぐりが落ちているのをみつけ走り出しますが、足元が不安定で滑ることに気付き、自分で歩き方を考え工夫して坂道を降りていきます。不安定な坂道を歩くことで、バランス感覚が育まれていきます。

うさぎ組（3歳児）：「これでおもちつくるん」

「これでおもちつくるん」「したに火をいれるんだって」「すごい～」「おもちって最初おこめなん！！」「どうやっておもちになるん？！」杵や臼を触り「へぇ、これが杵か～」「結構重いね！」「でも、力持ちじゃけ、持てるよ」「ぺったんするのたのしみ！！」ともちつきの道具を見て触り、日本伝統の餅つきを楽しみにしています。

そら組（4歳児）：「もっと回せるようになりたい」

絵本『びゅんびゅんごまがまわったら』を見て、「このこま作ってやってみたい」「回らない」「むずかしい」「どうやったらまわるのかな？」紐のひき加減を工夫したり、友だちのやり方を見たり、試行錯誤しながら、あきらめずに繰り返し挑戦していました。回せるようになったら、「２つのこまを一緒に回したい」と意欲的に挑戦は続きます。

ひかり組（5歳児）：「幸せにくらせますように」

自分達で竹を切り、門松作りに挑戦。「あれ？昨日より竹かたい」「幸せにくらせるように頑張って」竹の切り口をみて「見て、竹の切り口めっちゃ笑顔」「これで、一年笑顔で暮らせるね」自分たちで準備した南天・松・葉牡丹を飾る意味を知ることで興味関心を広げ、楽しみながら日本の伝統文化「正月」を迎える準備に臨んでいます。